

特集

2010年の 物流・流通； 課題と施策

金融・経済の大激震の余燼がなお空を覆い、政権交代という歴史的な状況変化が音を立てて進行するただ中、2010年が幕を開けた。

新しい年の物流・流通の動きを展望する恒例の新春企画として、本誌は今回も経済産業省・国土交通省の施策キーマンに話を聞いた。

前者については昨年同様、流通政策課の高橋課長、後者については昨年から3回シリーズでお届けしてきた国交省と日本3PL協会との対談シリーズの最終回を新年バージョンで統合し、新たに着任した尾関参事官と大須賀会長にご登場いただいている。それらにも言及されている通り、わが国産業経済・物流分野を取り巻く環境は実に厳しい。だがそのさなかにも、実績を伸ばしている成功企業・事業分野はある。

いま一度、私たちは決意を新たにし、若水のフレッシュな気持ちで、戦いに臨もうではないか。いかなる厳冬にも、春は、必ず訪れるのだから。 (編集部)

流通政策課・高橋課長インタビュー



**物流・サプライチェーン高度化で
企業の国際競争力向上へ**
経済産業省の物流・流通施策展望

国交省・尾関参事官*日本3PL協会・大須賀会長 / シリーズ対談③



国交省 尾関参事官

日本3PL協会 大須賀会長

**現場直視でデータをとらえ、
実行：大不況時代の3PL勝ち残り戦略**
国土交通省の物流施策と3PLの展望

物流・サプライチェーン高度化で 企業の国際競争力向上へ



～経済産業省の物流・流通施策展望～

高橋直人氏

経済産業省 流通政策課 課長

貿易手続き・制度改善で国際物流効率化

——本誌恒例の年頭インタビュー、今回は政権交代という歴史的変動を受け、政策は政治主導の流れで来年度予算の大規模な見直しが進むさなか、というかつて例のない状況下での取材となりました。

この1年はまた、世界同時不況の伝播から収束、ようやく反転への兆しが見えるまで、産業界にとっても苦闘と忍耐の日々でした。

そうした中、経済産業省が推進する流通・物流効率化施策について、09年7月に発表された新・総合物流施策大綱も踏まえながら、昨年お聞きした今年度施策の進捗状況と今後の施策ポイント・展望につき、お伺いしたいと思います。

まず、国際物流・サプライチェーン効率化のテーマですが、輸出入の流れを円滑化する貿易手続きや制度については、その後いかがでしょうか。

高橋 内閣官房が取りまとめる貿易手続き改革プログラムのフォローアップ会合が09年も8月に行われましたが、港湾手続の効率化等港湾サービスの高度化は順調に進捗しています。

08年10月に稼働したシングルウィンドウに09年10月、港湾管理者の手続を追加して輸出入・港湾関連手続の電子化・一元化を推進するとともに、さらなる利便性の向上を図りました。

また2010年2月を目途に、航空貨物を処理するNACCSを更改し、空港の入出港手続もシングルウィンドウ化します。そのあり方については継続的に見直し、NACCSと民間の物流関連システムを連携して国際物流の「中核となる基幹システム」を構築し、合わせて電子手続のあり方等について検討していきます。中長期的課題としては、植物・動物検疫

システムとの統合も検討中です。

セキュリティの高度化のため輸出入手続・検査が煩雑化している保税通関制度と、物流効率化を両立させるためのAEO制度（コンプライアンスに優れた事業者は保税地域搬入前に輸出申請できる）も、着々と整備されています。

しかし荷主企業からはAEOのメリットをもっと明確化してほしいとの要望があるので、他国とのAEO国際相互承認の推進などに力を入れて行きます。

——08年10月からはニュージーランドとの相互承認が実施されましたが、その他については…。

高橋 米国とも09年6月に合意し、ただちに実施しました。続いてEU諸国との間でも交渉を継続しています。

とくに諸外国に生産・物流拠点を展開する民間企業からは、各国の